

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番	第	號
系	部	門
種	類	部
種	類	項
目	次	次
全	冊	冊
分	冊	冊
冊	冊	冊
分	冊	冊
冊	冊	冊

校  
部  
番

T1A1  
23  
Ka11be

明治辛未十月

瓊江河禮之譯述

# 米國律例

一名通法撮要

盈科齋藏版

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 2 6 6 6 a

福岡教育大学蔵書

通法撮要卷一

目次

例法 律法

第一款 人民ノ通義 一身ノ安全ヲ保ツ

事 一身ヲ自由ニスル事 教法

ノ自由 言語ノ自由 著述ノ自

由 私有ノ通義

第二款 人倫 夫婦

第三款 人倫 親子 傳孤 幼穉 主人

通法撮要 目次

受業子 從僕  
 第四款 財産ノ權 財産ヲ有スル法  
 遺書 財産ヲ繼承スル法

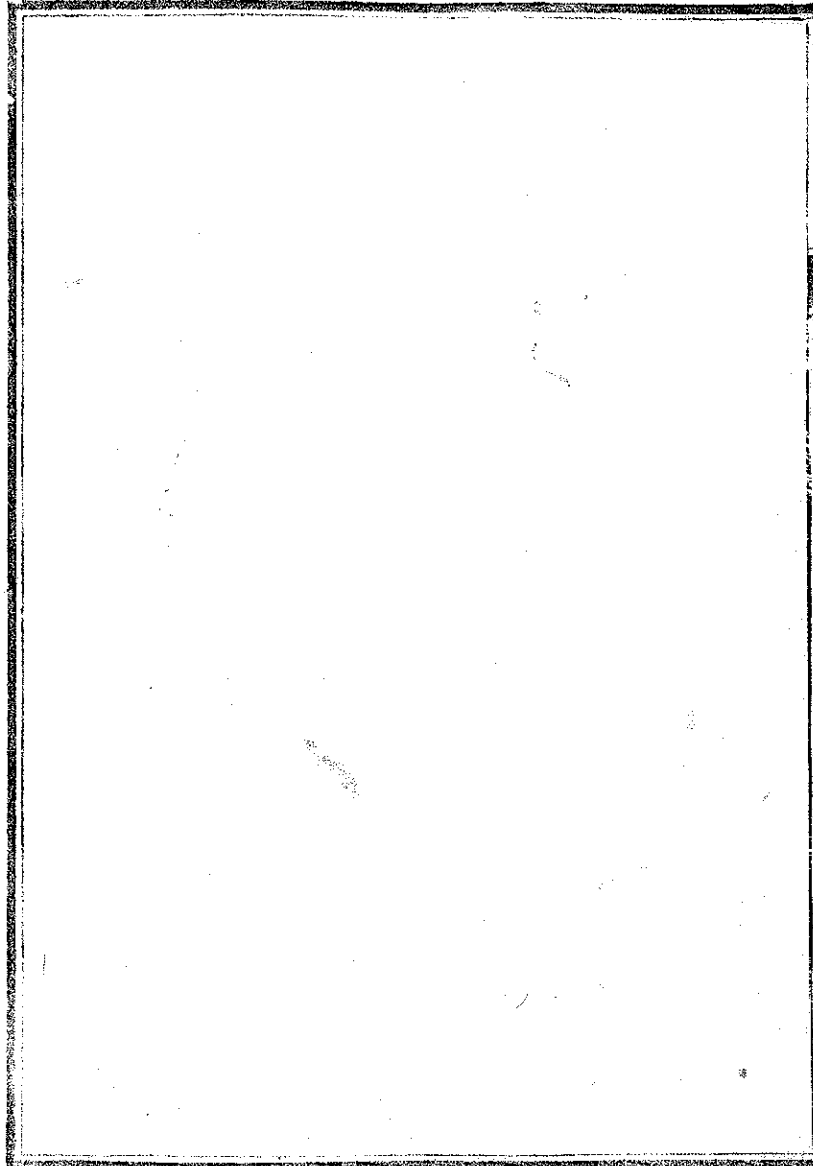
卷二

目次

第五款 財産授受及典當ノ證券  
 第六款 無形ノ産業 道路水利等ノ權義  
 第七款 貸券 一代ノ基業 年限ノ基業  
 任意ノ基業 因循ノ基業

賃租

第八款 約書ノ通則  
 第九款 買賣ノ約書  
 第十款 財主 管業 手代 牙僧 質物  
 第十一款 夥伴 一名組合仲間



緒言

原本ハ政學課程書カラス、ゴソクトト題シ  
 テ聯邦ノ政學家伊熊氏ノ著述ニ屬シ千八  
 百六十七年ニ刊行シタル者ナリ而シテ此書  
 ハ其中ニテ例法律法公法ノ概畧ヲ述ヘタ  
 ル一部ヲ拔譯スル者ニテ姑ラク顔シテ通  
 法撮要ト云フ原本ノ全鼎ヲ味ント欲スル  
 者ハ既ニ刊行シタル政治略原ニ就キテ之  
 ヲ見ルヘシ

著主ノ趣意ハ小學校ノ少年ヲシテ彼ノ法律ノ一斑ヲ窺ハシムル爲メニシテ原トヨリ之ヲ以テ専門トスル學者ノ為メニアラス故ニ平易簡略ニシテ今日人ト交リ業ヲ營ム者ノ心得ヘキ要領ノミヲ掲ケテ未タ其蘊奧ヲ盡スニ足ラス明法ノ志ヲ懷ク者ハ自ラ其科ノ全書アルヘシ  
政治略原ニ述シ如ク亞米利加聯邦ハ三十余ノ獨立邦相集リテ一大國ヲ為シタル通

稱ニシテ民法刑法等ニ至リテハ一邦ハ自ラ一邦ノ典例アリテ皆ナ一途ニ出ルニアラス故ニ書中某邦ト稱スル者ハ即チ一邦ノ事ト為リ聯邦或ハ國ト稱スル者ハ乃チ三十余邦ノ總稱ト為ルト知ルヘシ

辛未初夏

譯者誌

通法撮要卷一

瓊江河禮之 譯述

第一款 人民ノ通義 一身ノ安全ヲ保

ツ事 一身ヲ自由ニスル支

教法ノ自由 言語ノ自由 著

述ノ自由 私有ノ通義

人民ノ通義ヲ達シ國民タル者ノ當ニ務ムヘキ  
本分ヲ指示シ而シテ一身ヲ處シ彼我相交ル規則  
ヲ國律又ハ例法ト稱ス政法或ハ國憲ト稱スル

者トハ自ラ別アリ  
國律ニ二類アリ其一ハ成文律即チ律法其一ハ  
不文律即チ例法是ナリ律法ハ立法官ノ議定ニ  
出テ之ヲ憲典ニ載セテ國內ニ刊布スルヲ云フ  
例法ハ昔ヨリ流行スル處ノ故例舊俗ニシテ其  
趣意專ラ義理公道ニ基キテ自然ニ今日ニテ  
種不變ノ法典ト爲リ人民敢テ之ニ悖ル者ナキ  
ヲ云フ我國ノ例法ナル者ハ其源ヲ英國ニ發シ  
テ鼎革前ハ舊習ニ從フテ之ヲ用ヒタリシカ建

國ノ後ニ至テ取捨斟酌シテ改メテ國ノ法ト爲  
シタリ  
法律ヲ以テ最モ大切ニ保護スル處ノ通義ハ一  
身ヲ安全ニシ一身ヲ自由ニスルニ在リ一身ノ  
安全トハ性命ヲ保チ名聲ヲ持シテ少シモ損傷  
玷辱ヲ蒙ラサル權利ヲ云フ一身ノ自由トハ苟  
モ我心ニ可トスル時ハ動靜舉止唯タ意ノ如ク  
ニシテ毫モ束縛セララル、一無ク毫モ屈撓スル  
一無キヲ云フ此二條ノ通義ヲ保護スルハ國民

爲メニ一大緊要ノ事ナリ故ニ全國ノ國憲ニ  
 掲ケ尚又各邦ノ邦憲ニ出シテ謹慎ヲ極ムルナ  
 リ  
 一身安全ノ通義ヲ保護スル爲メニハ特ニ法律  
 ヲ設ケテ若シ某人ト某事ヲ生シ其性命ニ虞ル  
 ヘキ事アリテ安全ナラス情實現然タル時ハ乃  
 官ニ乞フテ穩當ノ處置ヲ仰ク是ニ於テ官ヨ  
 リ其敵手ノ者ヲ召シ而メ其是非ヲ判シ相共ニ  
 和平ヲ守ラシメンカ爲メニ保人ヲ立テ其橫暴

ラ防クナリ若シ又タ遽カニ橫暴ノ舉ニ及フ者  
 アル時ハ國ノ刑典ニ罹リテ忽チ罪科ニ處シ更  
 ニ亦タ民法ノ訟法アリテ其人ノ被ル所ノ損害  
 ヲ償補セシムルナリ  
 加フルニ又タ天然ノ正理ヲ以テ此ノ通義ヲ保  
 護スルモ國法ニ於テ敢テ之ヲ答ムルナシ之  
 ヲ一身ヲ防護スル權ト云フ乃チ惡意ヲ挾ミ性  
 命ヲ害セント欲スル者アレハ我カ一身ヲ保ツ  
 カ爲メニ其兇手ヲ殺シテ妨ケナシ是レ殺人勿



論ノ一條ヲ律ニ載スル所以ナリ横暴ニ對シテ  
 一人ノ私有ヲ防クニ於テモ此權ナキニアラス  
 然レモ普通ノ惡行普通ノ惡行トハ刑法ヲ以テ  
 類ナリ以下普通ノ惡ヲ單ニ通思ト譯スニ至ラサル所業ニ對シ或  
 ハ迴避ノ路アレモ之ニ依ルナクシテ止ムヲ  
 得ナル勢ニ托シテ此權ヲ用ユル者ハ罰シテ赦  
 サス  
 名聲ヲ保護スルモ亦ノ一身ヲ安全ニスル通義  
 中ニ包含シテ法律ヲ以テ保護シテ謔言誹謗ヲ

防クナリ「スランドルト」トハ人ノ名聲ヲ毀テ或ハ  
 其職業ノ妨障ト爲ル、キ流言ヲ捏造シ若クハ  
 惡シキ評判ヲ散布シテ人心ヲ惑シ人ヲシテ忽  
 チ世間ノ信任ヲ失ハシメ從ツテ人ニ交リ業ヲ  
 營ムヘキ生路ヲ塞キ或ハ又々惡意ヲ挾ンテ故  
 ラニ其人ノ害ト爲ルヘキ事ヲ設ケテ其人ヲ譏  
 刺スル等是レナリ口舌ヲ以テ人ヲ讒害シタル  
 者ハ民法ヲ以テ之ヲ處置シ本人ニ罰金ヲ課シ  
 テ損害ヲ贖ハシム

某ノ事ヲ紙上ニ著シ或ハ梓ニ上セ或ハ画ニ寫  
 シ或ハ記号ヲ用ユル等ノ讒說ハ皆是ヲ「ライベ  
 ルト稱シ乃チ其人ヲシテ世人ノ怨惡笑罵ヲ被  
 ラシムル者ニテ私ニ書東ヲ以テ之ヲ一人ニ告  
 ル者ト雖モ法ニ於テハ之ヲ人ノ陰私ヲ世ニ公  
 布スルト看做スナリ蓋シ筆ヲ假リ若クハ版ニ  
 鏤メタル讒害ハ流布廣大ニシテ人心ヲ煽動ス  
 ルト口舌ヨリモ自ラ深シ從ツテ其人ヲ害スル  
 トモ亦タ甚シ故ニ書ヲ著シ且出版シテ「ライベ

ルノ科ヲ犯ス者ハ其事口舌ヲ以テスレハ其咎  
 ヲ蒙ラサル個條ト雖モ其罪ニ歸シテ其害ヲ贖  
 ハサル可ラス此科ハ民法ヲ以テ本人ニ相當ノ  
 贖金ヲ命スル耳ナラス通惡ヲ犯ス者トシテ刑  
 法ノ裁判ヲ蒙ル者ナリ  
 英國ノ例法ニ於テ讒害ノ刑獄起ル時ハ敢テ事  
 實ノ真偽ヲ論スルト無シ故ニ犯人審司ニ向ッ  
 テ其所述ノ偽言ニアラサルヲ辨明スルト許  
 サス蓋シ此科ヲ設クル趣意ハ其人ヲ「機」スル

罪ヲ罰スル爲メニテ偽書誣言ヲ咎ムルニ非レ  
 ハナリ而シテ又タ人ヲ讒シ人ヲ害スル著述ハ其  
 真偽ニ拘ハルヲ無ク争論ヲ起シ國ノ安寧ヲ破  
 ル原ト爲ル者ナレハ乃チ之ヲ目シテ惡意ヲ挾  
 ム所業ト爲スナリ  
 一身ヲ自由ニスル通義ハ國憲中ニ「ハビース、コ  
 ルプス」ノ優典ヲ國民ニ許容スル明文アリ且ツ  
 亦々各邦小政府ノ憲與ニモ之ヲ載セタリ抑モ  
 此通義ハ古來不變ノ典例ニシテ決シテ立法官

ニ於テ之ヲ用捨スルヲ許サス謂フニ是ハ議  
 院及小政府ノ立法廳ヲ限制シテ其ノ廢置ノ權  
 ヲ專ラニスルヲ得サラシムル趣意ナルヘシ  
 人々ノ意ニ任シテ已カ信スル處ノ教ニ歸依シ  
 之ヲ崇奉シテ本心ヲ束縛スルナキヲ信教ノ自  
 由ト云フ此ハ是レ一身ノ自由ニ屬シタル大切  
 ノ通義ニシテ我國ニ於テ殊ニ之ヲ尊重セリ昔  
 シ我カ故國英蘭土ニ於テハ一定ノ宗門ヲ建テ  
 政府之ヲ保護シテ人民ノ他宗ニ歸依スルヲ

許サス之ヲ政教一致ノ法ト稱シタリ我人民ノ如キハ最モ其本性ノ自然ヲ養ハシムルノ通習ナレハ此ノ如キ束縛ノ法ヲ立ツ可ラサル明文ヲ國憲ニ載セテ議院ヲ限制セリ各邦ノ憲典ニ於テモ然ラサルハナシ別ニ緊要ノ一通義アリ一身ノ自由中ニ屬シテ毫モ之ヲ束縛セス國憲之ヲ保護シ邦典之ヲ申明ス之ヲ言語著述ノ自由ト云フ帝王ノ政ニ屬スル邦國ニ於テハ上ヲ語リ政事ヲ可否スル一

ヲ許サス著述アル者ノ預メ其稿本ヲ有司ニ呈シテ其検査ヲ經ルニアラサレハ之ヲ梓ニ上スルヲ得ス所謂人民ノ口ヲ塞クノ弊政ニアラスヤ我國ニ於テハ人民ノ意ニ任セテ言ヲ放ツテ萬機ノ得失ヲ述ヘサシメ聊カモ限制ナカラシカ爲メニ此ノ通義ヲ國憲ニ掲ケタリ而シテ亦本人其著述ノ責ニ任スヘキ一句ヲ添ヘテ以テ詆謗讒害ヲ防キタリ私有ノ權利トハ財産ヲ所持シ自由ニ之ヲ用ヒ

其樂ニシテ致ス通義ナリ是ヲ以テ人民ヲ保護シ  
テ此通義ヲ享用セシムルノ即チ法憲ノ大眼目  
ナレハ別ニ其門ヲ立テ專ラ其處ニ於テ之ヲ論  
述ス可シ

### 第二款 人倫 夫婦

男子十四歳女子十二歳以上ヲ全國ノ例法ニ於  
テ冠筭ノ期ト為ス此ノ年齢ニ至ラサレハ嫁娶  
ノ契約ヲ結フ可ラス之ヲ守ラサル者ヲ無法ノ  
嫁娶ト稱ス諸邦ニ於テハ尚ホ此ノ年齢ヲ以テ

自ラ嫁娶ヲ契約スルニ十分ナラストシテ更ニ  
律法ヲ設ケタル處アリ即チ阿邦音邦米邦ニ於  
テハ男子十八歳女子十四歳伊邦ハ男十七歳女  
十四歳愛邦ハ男十八歳女十五歳等ナリ  
年齢其期ニ至ル而已ナラス亦男女俱ニ身心全  
備シテ終身ヲ經營スル常務ニ達セサル可ラス  
故ニ狂癡ハ法ニ於テ婚娶スルヲ許サス男女  
ノ情願ニ任セテ一點ノ故障アルヲ許サス故ニ  
威迫ニ依リ或ハ偽詐ヲ以テ一方ノ約諾ヲ得タ

ル者ハ嫁娶スルヲ許サス而ノ叔姪姑甥ノ如  
 キ近親モ亦タ禁例ノ内ニ屬ス  
 妻アル男夫アル女ハ之ヲ置キテ別ニ婚娶スル  
 ヲ許サス例法ニ於テハ此ノ如キ復嫁復娶ヲ  
 無体ノ婚姻ト看做シテ取用ヒス刑法ニ於テハ  
 之ヲ<sup>刑</sup>ホリゲミ<sup>刑</sup>ノ科ト稱シテ邦獄ニ禁錮スル  
 罪ト爲ス但シ夫妻永別シテ音信ヲ通セス存シ  
 ヲ審ニセサル者或ハ前夫若クハ前妻刑典ニ罹  
 リテ終身禁錮セララル者或ハ先般ノ嫁娶禁例

ニ屬シテ法ヲ以テ之ヲ離斷シタル者ハ此例ニ  
 アラス

右格別ノ復婚ハ唯タ其罪ヲ宥ス耳ニテ敢テ之  
 ヲ公然ト許容スルニアラス若シ復婚ハ<sup>此時迄テ</sup>前  
 婦ノ存亡ヲ審<sup>ニ</sup>後ニ至リテ前夫前婦未タ存在  
 シテ而離縁ノ法ヲ行ハサル時ハ直ニ復婚ヲ廢  
 シテ初婚ヲ正トス之カ爲メ特ニ律法ヲ設ケサ  
 邦衙ニ於テハ例法ニ據リテ之ヲ判断ス例法  
 ニテハ死亡若クハ法曹ノ許ヲ得ルニアラサレ

ハ最初ノ契ヲ絶ツヲ許サス  
 婚姻ノ儀式及ヒ之ヲ行フ人品及ヒ官許状ヲ得  
 ル規則或邦ニ於テハ此上ニ婚姻シタル者ハ  
 備ニ諸邦ノ律法ニ載セタリ常法ニテハ法教師  
 判司、邑衙ノ官吏之ヲ司ルナリ然レモ例法ニ於  
 テハ嫁娶スル處ノ男女雙方情願ノ趣ヲ證人ノ  
 目前ニテ誓約シテ足レリトス又タ男女室ニ居  
 テ互ニ夫職、婦道ヲ履キ守リテ世上ノ公許ヲ得  
 ルトモアリ

法律ノ眼ヲ以テ視ルハ夫妻ハ同一体ニシテ  
 別異アルヲ無シ例法ニ於テ婚姻ノ後ハ妻タル  
 者ノ財産嫁前ニ得ヘキ者ヲ論ハスハ乃チ夫タ  
 ル者之ヲ有スル權利アリテ其動財金銀衣飾ハ  
 證券ノ存スル貸金ト齊シク隨意ニ之ヲ使用シ  
 之ヲ處置シテ毫モ故障ナシ年ヲ限リテ所有ス  
 ル田土ハ原ト動財ニ屬スト雖モ夫主ノ遺言ヲ  
 以テ之ヲ他人ニ授ケ讓ルヲ能ハス若シ生前ニ  
 之ヲ所置スルヲ無クシテ夫没スル時ハ直ニ妻

ノ名前ヲ以テ之カ地主ト爲ル權アリ妻先ニ死  
 スルキハ夫ノ所有ニ歸ス  
 實產代持田土等ニ至リテハ夫タメ者之ヲ授受ス  
 ル權ナシ唯々存生中之ヲ用ヒ之ヲ貸シテ其利  
 ニ浴スル耳ナリ若シ夫没シテ妻存スルキハ再  
 ヒ妻ノ有トナル若シ妻死シテ夫存シ之ヲ讓ル  
 可キ子女アルト無ケレハ乃チ妻ノ業ヲ承ル者  
 ニ歸ス而シテ若シ子女アハ時ハ夫存生中之ヲ保  
 チ死シテ后チ妻ニ復シ或ハ其繼嗣ニ歸ス

例法ニ於テ斯ノ如ク妻ノ財産ヲ夫ノ有ニ歸シ  
 之ヲ處置スル法ヲ不當ト爲シ之ヲ廢シテ特ニ  
 律法ヲ設ケタリ其法未嫁マ前ニ於テ妻ノ所有  
 ニ屬シ或ハ既嫁ノ後ニ至リテ他人夫ヲ除ヨリ  
 讓リ受ケタル處ノ實產動財ハ其賃租及利息ト  
 俱ニ都テ妻ノ所有ト定メ其名ヲ以テ之ヲ處置  
 ス可シ夫ニ逋債アリト雖モ之ヲ以テ其償ニ充  
 タスヲ要セス但シ夫ノ逋債ニ充タスト無シト  
 雖モ之ヲ收管シテ賃租ヲ取り利息ヲ得ルニ於



テハ妨ケナシ

例法ニ於テハ婚姻ノ後、夫タル者妻ノ財産ヨリ  
 所出ノ利潤ニ浴スルカ故ニ未嫁ノ前ニ約シク  
 ル逋債ハ乃チ夫ニ於テ之ヲ償ハサル可ラス但  
 シ聚首中ニ之ヲ償ハスシテ離別スル時ハ夫ニ  
 於テ更ニ其後ノ逋債ニ關係アルコトナシ且ツ未  
 嫁前ノ所有ヲ以テ夫ノ所持ニ歸スル例法ヲ停  
 止シタル諸邦ニ於テハ亦夫ニ於テ未嫁前ノ逋  
 債ヲ償フヘキ義務ヲモ停止シテ妻ノ財ヲ以テ

妻ノ債ニ充スト為シタリ

妻ヲ養フハ夫職ノ第一ニシテ衣食ノ要需ヲ求  
 ムル為メノ逋債ハ之ヲ償ハサルヘカラス夫ト  
 シテ妻ノ缺乏ヲ見テ之ヲ補フトコト肯セス或ハ  
 之ヲ凌虐シ或ハ夫職ヲ缺キテ離別スルトハ尚  
 ホ其衣食ノ要需ヲ供給スルヲ要ス仮令他人ヲ  
 禁シテ妻ニ賒貸ヲ為サシメサルト雖モ衣食  
 ノ逋債ヲ償フハ免レサル處ナリ若シ又タ男女  
 ノ情願ニテ訣別シ而メ夫ニ於テ別ニ養育ノ道

ヲ立テ其約ニ違ハスシテ之ヲ扶持スル片ハ衣食ノ要需タリト雖モ其逋債ニ任スル責アル一  
無シ

夫妻ハ互ニ證人ト為リテ之ヲ告發シ之ヲ訴訟  
シ之ヲ辨解ス可ラス然レモ妻タル者其夫ニ代  
リテ事業ヲ為ス片ハ其陳述シタル口詞ヲ以テ  
其罪科ヲ定ムル證據ト為スニアリ

第三款 親子 傳孤 幼穉 主人  
受業子 從僕

父母ノ其子ヲ養育スルハ天倫ノ義務ナリ故ニ  
未ダ幼弱ニシテ二十一歳ニ滿タサル間ハ必ス  
之ヲ扶持シ之ヲ教訓セサル可ラス二十一歳ニ  
至リテ始メテ室アリテ業ヲ營ム之ヲ成年ノ期  
ト云フ此期ニ至ル迄テハ子女別産ヲ有スル者  
ト雖モ父其カアレハ之ヲ扶持スルヲ要ス父存  
シテ其カアル時ハ母其責ニ任セス但シ前夫ノ  
子ハ夫タル者ニ於テ之ヲ扶持セスシテ可ナリ  
然レモ之ヲ家ニ迎ヘテ同居スル間ハ養育ノ責

ヲ免レス

父タル者ハ他人ノ其子ニ與ヘタル衣食ノ債ヲ  
 償ハサル可ラス然レモ之ヲ償フニハ其物料ノ  
 約定實ニ其子ノ本心ニ出シ乎或ハ止ムヲ得サ  
 ル事情ニテ必竟本心ニ出シニ異ラサル乎或ハ  
 他人之ニ物料ヲ與フルヲ實ニ父職ヲ盡サス養  
 育ノ道缺ケテ傍視スルニ忍ヒサル情ニ出テタ  
 ルカ其證據ヲ得ルニアラサレハ父之カ責ニ任  
 スルヲナシ既ニ鞠養ノ任アルヲ以テ父ハ其子

ヲ使役スル權アリ故ニ他人父ノ承諾ヲ俟スシ  
 テ子ヲ役スル者ハ父其工錢ヲ需索シテ妨ケナ  
 シ

總シテ幼少ノ者ハ之ヲ責メテ親ヲ約定ヲ踏マ  
 シタルヲ能ハス父或ハ其保者アリテ苟クモ鞠  
 養ノ道缺クルヲ無ケレハ衣食ノ要需ト雖モ債  
 主ニ於テ之ト約定ス可ラス其父其保ノ無キ孤  
 子ナレハ衣食ヲ購メタル約定ハ乃チ其逋債ト  
 ナルヘシ若シ又成年ノ後ニ至リテ還納スヘキ

約定ニテ財貨ヲ借リシ者ハ乃チ本人ノ逋債ト爲ルヘシ

幼少ノ者田宅ヲ借リテ貸ヲ納ムヘキ約定ヲ爲スルハ成年ノ期ニ至ル迄ノ賃租ハ地主ヨリ之ヲ返納スヘシ然レモ若シ之ヲ再タヒ人ニ貸シテ其賃租ヲ得タルルハ返納スルヲ要セス若シ又約定ノ上ニテ金銀ヲ出シ其爲メニ利分ヲ得ルルハ成年ニ至リテ之ヲ止ムルト雖モ償金ヲ望ムヘカラス此ノ償金トハ幼少ノ者ニ至ル迄ノ日サシムル時ハ成年ニ至ル迄ノ日

月ノ算シテ利息ヲ贖フヲ示フ 若シ幼少ノ間ニ約定ヲ爲シ而

之ヲ遂ケ其利ヲ占メ成年ニ至リテ之ヲ破ルルルハ相當ノ償金ヲ出ス可シ

刑典ヲ犯スルハ幼少ト雖モ之ヲ宥ムルヲ無ク

之ヲ勘糾シテ罪名ヲ定メテ贖金ヲ出サシメ或

ハ其身ヲ禁錮シ而シテ又詭詐ノ所業アレハ其罪

道レ難シ唯タ其事其時ノ情實ヲ吟味シテ是

寛宥スルノ路アルノミ然レモ是非ヲ辨別スル

年齢七歳ヨリ十歳ニ達シテ詭詐著明ナル所業マル

キハ其約定ヲ蹈ニ行ハサルヲ許サス  
 總シテ十八歳以下ノ男女夫妻ヲサレ者ハ其心ノ情  
 願ニ由リ約書ヲ以テ受業ノ弟子ト爲リ從者ト  
 爲リ男子ハ二十一歳女子ハ十八歳迄テ主人ニ  
 服役シ或ハ職業ヲ操作スル約書ヲ認ムルト勝  
 手ナリ然レモ父アル者ハ父ノ許諾ヲ承クヘシ  
 父没シ或ハ存シテモ法ニ於テ之ヲ許サス狂痴ノ類  
 或ハ一家ノ給養ヲ怠ル者ハ母ノ許諾ナカルヘ  
 カラス若シ母死シ或ハ存シテモ法ニ適セサル

者ハ傳保ノ許諾ヲ要ス  
 若シ其幼少依頼スル處ナク救卹ヲ蒙ル者ナレ  
 ハ之ヲ預ル官吏ノ許諾ナカル可ラス而シテ諸邦  
 ノ律法ニ於テ此官吏ハ右ノ幼年ニ書寫ヲ教ヘ  
 男子ナレハ普通ノ美術ヲモ學シム可キ責ニ任  
 スナリ  
 業主ハ隨分其弟子ノ懶惰ヲ懲シ不善ノ行ヲ矯  
 正スルノ權アリ而シテ又タ弟子故意ニ其業ヲ廢  
 スルキハ償ヲ責メテ妨ケナシ然レモ之ヲ凌虐

シ或ハ約諾ヲ破ルルハ業主ヨリ償ヲ出ス可シ  
又タ衣食ノ費醫藥ノ價モ業主ニテ之ヲ辨スル  
ヲ要ス時日ヲ限リテ所雇ノ従者ハ此關係アル  
コトナシ

若シ弟子心術善カラス或ハ業主ノ命ヲ奉セサ  
ル時ハ適當ノ有司ニ願フテ情實ヲ吟味シ果シ  
キ其言ニ違ハサレハ約書ヲ削リテ師弟ノ義約  
ヲ絶ツ可シ又業主死スルルモ弟子ノ分盡ルナ  
リ

僱直ノ従僕及ヒ之ヲ使役スル主人ニ遵守スヘ  
キ主從ノ權利義務ヲ解釋スル明律ナシ唯々主  
從俱ニ其約ヲ違ヘサルニ在ル耳若シ僱僕期限  
ノ充サル間ニ其務ヲ果サス相當ノ名義ナクシ  
テ從屬ヲ止ムル時ハ其工錢ヲ需ム可ラス而メ  
言行善シカラス意アリテ其命ヲ奉セス性習其  
業ヲ勤メサル者ナレハ直ニ之ヲ放逐シテ可ナ  
リ之ニ反シテ主人凌虐ヲ施シ或ハ其約ヲ守ラ  
サル時ハ僱僕其務ヲ止ノテ可ナリ

主人タル者其傭僕ノ所業ノ不善ニ依テ之カ責ニ任スル定度ハ未タ明解アル一無シ要スルニ主人タル者ハ決シテ其約ヲ違フ可ラス而ノ實ニ主命ヲ奉シテ其業ヲ勤ムルニ當リテ所生ノ損失ハ原ト傭僕ノ粗忽ニ起リ或ハ未熟ニ依リテ然ルヲ論セス都テ主人之ヲ賠償スルヲ法トス然レモ故意ニ設ケタル損失ハ主人ニ歸スル一無シ但シ傭僕他人ニ托シテ其業ヲ為サシメテ所生ノ損失モ本人ノ所為ニ異ル一ナシ

傭僕其約ヲ守ラス或ハ其業ヲ怠慢シ或ハ主人ノ業ヲ以テ他人ニ損失ヲ與フル時ハ主人ニ對シテ其償ヲ為サル可ラス

第四款 財産ノ權 財産ヲ有スル法 遺書 財産ヲ繼承スル法

我カ聯邦ノ國民タル者ハ皆ナ實産 田土ヲ持シ先人ノ遺囑ニ由リ或ハ父祖ノ業ヲ嗣キテ之ヲ繼承シ之ヲ買ヒ之ヲ賣リ之ヲ讓ル可キ權アリ外國人ハ例法ニ於テ此權ヲ有スル一能ハス然

レ氏新ニ律法ヲ設ケテ外國人ニモ此權ヲ分與スルコトアリ九ノ外國ノ人我カ戸籍ニ入ント欲スル志願アル者ハ公ケニ其旨趣ヲ稟告シテ一定ノ法則ヲ蹈ミ守ルキハ乃チ其名ヲ以テ田土ヲ保有シ其意ニ從ツテ之ヲ授受シ又タ承業ノ者ニ傳ヘテ妨ケナシ動財ヲ處置スルニ至リテハ物主隨意ニ授受シテ内外ノ別アルコトナシ財産ノ遺傳トハ死期ニ臨ンテ遺囑ノ證書ヲ作リ死後ニ及ンテ其財産ヲ處置シテ其人ニハ某

物ヲ授與スルコトヲ云フ此ノ遺書ヲ又タ「テストメント」ト稱ス證據ノ義ナリ之ヲ爰ニ用ユル所以ハ遺書ヲ奉承シテ其人ノ遺囑ヲ相違ナキ者ト證明スル意ナリ遺書ヲ作りテ死シタル人ヲ「テストメントル」遺囑スト云ヒ之ヲキク「インテステメントル」無遺ト云フ  
 成年二十以上ノ人狂痴ニアラサル人無夫ノ婦人ハ皆死期ニ臨ンテ遺書ヲ作り實產動財ヲ他人ニ譲リ授ク可シ動財ハ成年ニ滿サル者モ遺傳



シテ妨ケナキ處アリ婦人ハ十八歳ニ至レハ實  
動ノ差別ナク之ヲ遺囑シテ処置スル處モアリ  
又々動財ハ證書ヲ作ルナク遺囑ヲ口上ニテ  
申述シ十日ノ間ニ之ヲ文書ニ認メ嫌疑ナキ人  
物ヲ以テ其證人ト爲シテ妨ケナキ処モアリ之  
ヲ無筆ノ遺囑ト云フ

大概諸邦ニ於テ新ニ律法ヲ設ケテ有夫ノ婦人  
嫁娶ノ時ニ所持シ且ツ其後ニ所得ノ財産ハ實  
動ノ差別ナク都テ右婦人ノ別産ト爲シテ其名

ヲ以テ之ヲ所持ス可キ權ヲ與ヘタリ既ニ所持  
ノ權アル中ハ遺囑ヲ以テ之ヲ所置スルノ權ア  
ルハ無論ノ理ナリ

實産ヲ傳授スル遺書ヲ作ルニハ必ス兩名以上  
ノ證人ヲ立テ其面前ニ於テ之ヲ申述シ證人之  
ヲ見届ケテ而ノ后チ末期ノ遺書ニ相違ナキ趣  
ヲ書シテ之ニ調印ス可シ本人無筆ニテ姓名ヲ  
書シ能サル時ハ他人其差圖ニ從ツテ之ヲ書シ  
而ノ代筆者ノ姓名ヲ添ヘテ證據ト爲スヘシ

遺言 卷一  
一度遺書ヲ作りタル者其後ニ至リテ先ノ遺書  
ヲ廢シ或ハ之ヲ改ムル法則ハ先ニ遺書ヲ作り  
タルキニ異ナルヲ無シ而ノ再度ノ遺書中ニハ  
必ス前囑ヲ廢シ或ハ財産ノ處置ヲ改メタル明  
文ナカル可ラス又財産ヲ賣却シテ遺書ヲ廢紙  
ト為スヲアリ遺囑後ニ田土ヲ遷移シ或ハ其利  
分ニ於テ増減ヲ生スルヲアルキハ乃チ明カニ  
遺書ノ文言ヲ換ユルヲナクシテ其趣意ヲ改ム  
ルト看做スナリ原トヨリ遺囑ヲ爲シタル後ニ

所買ノ田土ハ遺書ニ漏レタルヲ勿論ナリ普通  
ノ法則ニテ遺囑後ニ妻ヲ娶リ或ハ子女ヲ産シ  
而ノ別ニ妻子養育ノ備アラサル時ハ遺書ヲ廢  
紙ト為スナリ又タ未嫁ノ婦人ノ遺囑モ亦タ婚  
姻ヲ結フ時ニ至リテ忽チ停止スルナリ  
或邦ノ律法ニテハ本人ノ死後ニ生レ或ハ存生  
中ニテモ遺囑ノ後ニ生レタル子女ハ財産ヲ繼  
承スルヲ遺書ヲ賜サスシテ死スル者ニ於ルカ  
如シ又或邦ニ於テハ更ニ一層進ンテ子女其父

母ノ生前ニ別産ヲ分割スルナク而ノ遺書中ニ子女ニ財産ヲ傳フヘキ旨ヲ載セサル時ハ特ニ之ヲ分與シテ餘澤ニ浴セシムルナリ  
 遺囑シタル人死シタル后チ右遺書ヲ産業取捌ノ役所ニ持參シテ其允准ヲ願フ此ノ手數滞リ無ク成就シタル上ニテ役所ヨリ右遺言ノ通り處置シテ苦シカラサル免狀ヲ支配人ニ付與ス支配人トハ本人遺書上ニ明カニ姓名ヲ掲ケテ此人ニ遺囑ノ趣ヲ取扱シムヘキ旨ヲ陳述シタ

ル者ヲ云フ支配人之ヲ辭シ或ハ法ニ於テ許サ  
 ル處ノ人物ナレハ役所ニ於テ特ニ一人ヲ命  
 シテ遺書ニ免狀ヲ添ヘ此人ニ付與シテ處置セ  
 シム此人ヲ代理者ト云フ遺囑ヲ爲サスシテ死  
 シタル人ノ遺産モ又代理者ノ取扱ニ屬スルナ  
 リ  
 財産ノ繼承トハ父祖或ハ近親遺囑ヲ為サスシ  
 テ死亡シタル時ニ之ヲ受領スルヲ云フ凡ノ遺  
 囑セスシテ死シタル人ノ財産ハ正統ノ繼承ニ

傳ハル其法先ツ宗家ニ傳リテ子孫相續ス子孫  
ナケレハ則チ支派ニ分流スルナリ  
遺囑ナクシテ死シタル人ノ子女或ハ存生シ或  
ハ死亡シテ完聚セサル時ハ乃チ其遺産ヲ存生  
ノ子女ト死亡シタル者ノ兒孫トノ間ニ分與シ  
テ存生ノ者ハ兄弟完聚ノ時ニ承クヘキ分ヲ領  
シ死者ノ兒孫ハ其人数ノ多寡ニ拘ラス父母存  
生シテ承クヘキ分ヲ領スルナリ譬ヘハ我レ三  
人ノ子ヲ遺シテ死シ其兄弟ノ中一人既ニ没シ

タル時ハ乃チ遺産ヲ均シク三分シテ存生ノ二  
子ニテ一分ツ、承領シ残り一分ヲ死シタル子  
ノ兒女数人ニ盡與スルナリ  
若シ又タ子女死シテ兒孫ノミ存生スル時ハ兒  
孫ノ人数ニ拘ラス其父母ノ承領スヘキ分ヲ夫  
々ニ配當スルナリ譬ヘハ我二人ノ子アリ既ニ  
没シテ兄ハ三人ノ子ヲ遺シ弟ハ二人ヲ遺シテ  
都合五人ノ孫存生スル時ハ遺産ヲ兩方ニ均分  
シ兄ノ子三人ニテ一分ヲ領シ弟ノ子二人ニテ

他ノ一分ヲ領スルナリ  
 遺産相續ノ法則ハ諸邦ニテ同シカラス普通ノ  
 順序ハ先ツ父子相續シ正系ナキ時ハ父族ニ歸  
 シ父族ナケレハ母族ニ歸ス父母ノ近親ナキ時  
 ニ至リテ兄弟姉妹甥侄ノ支族ニ及フナリ  
 爰ニ遺産ト稱スル者ハ庄田ノ類ノ實産ニテ動  
 財トハ別ナリ動財ヲ承領スルハ諸邦ニ各異  
 ノ法則アルナリ

通法撮要卷一終

五ノホ  
三十一  
 評價  
 五月廿  
 三十一日也